

## 亡くなった二女に救われて、いまを生きている。

高岡教会 西島孝枝さん

平成15年、西島さんは自宅の火事で、二女(享年24歳)と義父を亡くした。親の借金で苦勞をさせ、幼子を残して不慮の火事で落命した二女の短い生涯を思うと、西島さんは「自分は生きている価値がない。自分が死ねばよかった」と胸が張り裂けるほどに悔いた。その死を受け入れることができず嘆き続けていたある日、仏教の教えにふれて衝撃を受ける。それは、「すべての人は一切衆生を救うという願いをもって生まれてくる」という言葉だった。かつて借金のことですと諍いが絶えなかった時に二女から諭された。孫の存在をとおして、かけがえのない情愛を教えてくれた。<私にも宿る人を慈しむ心を發揮させようと娘は自分を救うためにこの世に現れ、導いてくれたんだ>そう受けとめると、心の底に澱んでいたわだかまりが消え、澄んだ水のようなさわやかな涙が湧きあがった。西島さんはその日から、目の前の人すべてが自分を成長させてくれる大切な存在であると思え、「私は幸せ者」が口癖のようになった。



## 「思いやり」を、いつも心に

そろそろ温泉のぬくもりが恋しい季節になってきました。たっぷりの湯につかり、思わず「極楽、極楽」とつぶやく、そんな瞬間に安らぎを覚える人も多いことでしょう。心が安らかで楽しいとき、たとえそれが温泉につかっているときであっても、私たちは、思い煩いや恨み<sup>むね</sup>つらみといった感情を離れているのではないのでしょうか。迷いやとらわれが心からするりとほどこけ、何にも縛られない、安らかでのびのびとした自分がそこにいます。それはまさに自分を縛るものから離れた「仏の境地」といっていいのかもしれない。

ところで仏教では、「心を常に正しい方向に向ける」ことが大切といわれます。これは、<sup>しよく</sup>積尊が最初の説法で説かれた「八正道」の七番めに示された「正念」のことです。そこで、私なりに理解するところでしょうか、先の「心がほどこけ、安らかで楽しいときこそ、心が正しい方向にあるといえると思うのです。

また、「正念」の意味を「気づかい」「心くばり」と表現する人もいます。雑念を捨て、自分の「いま」に集中する。さらに、自分の思いは差し置いて、人さまが喜ぶように、幸せでありますようにと願いつつ、心を一つのことに向ける。それもまた、「正念」でありましょう。

# 立正佼成会

www.kosei-kai.or.jp Eメール: info@kosei-kai.or.jp  
〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号 TEL.03-5341-1615

創立  周年